

特集：宗教法人の資産運用理念を聞く②

年金運用モデルで将来の備え

I F A 法人 M K 3 株式会社

松岡 弘頼氏



G P I F を
イメージ

(23日付から引用)

松岡 目標運用利回りは設定していません。例えば、近年運用改革を進めている東京大は、期待リターンを5%に引き上げています。

竹井 欧米の大学なども非常に積極的な運用を行っています。

当山はそこまでする必要はなく、GPIFと同程度をイメージしています。GPIFは1・7%+賃金上昇率を目標にしながら、過去21年間の平均リターンは年率3・7%程度の実績があります。

松岡 と言つことは、基本資産配分もGPIFに近いイメージでしょうか。

竹井 そうですね。基本的には国内債券、外国債券、国内株式



総本山金剛峯寺執行財務部長
高野山真言宗財務部長

竹井 成範氏

外国株式への均等分散をイメージしています。その資産配分に則つて、為替リスクも取るようになるでしょう。

松岡 具体的には、やはり投資信託を活用してポートフォリオを構築するイメージですか。

竹井 そう考えています。今回の運用規程改正で投資対象に株式を加えましたが、実際に個別銘柄に直接投資を行う可能性は低いと思います。

松岡 大変貴重なお話です。多くの寺院の資産運用の参考になると思います。

寺院財政改善 多様な方法を

—寺院財政の改善に向けて、資産運用以外にも取り組んでいる

ことがあれば教えて下さい。

竹井 水面下で様々な施策を打ち出しています。代表例の一つは、キャッシュレス化の推進です。

松岡 当山には世界中から来山者がありますが、時代の流れで現金を持ち歩いている方が減っています。おさい銭から物品販売に至るまで、やはりキャッシュ決済の導入は避けられないでしょう。

また、昨今は硬貨を銀行に預ける際に手数料を徴収されるのが一般的になってきましたが、仮に1円玉を大量に預けると損失が発生してしまうことがあります。自己保管のリスクやコストも考えれば、お互いにとってメリットのあることだと思います。

まずは、奥の院の御供所などから始める予定です。決済音が響く

気を損なわぬよう、配慮しながら進めたいと思います。

竹井 まだ当山のブランドを生かすことができるはず。もっと本山が力を付けて、自立運営が難しい末寺にノウハウやシステムを提供できるようにすれば理想的です。

— 困窮する寺院への対応は各宗派共通の課題です。

竹井 非常に難しい問題です。宗内でも宗費を算出するための財務調査が論点になっていますが、本山と末寺が一緒に正解を考えていく必要があると思っています。そのためには、あらゆる選択肢を排除すべきではないでしょう。

過疎化は国全体の課題です、都市部の寺院も特有の課題を抱えています。宗内でも、寺格がありながら収入に苦しんでいる寺院は

寺院護持に向けた選択肢の一つ

運用は末寺を支える手段に

松岡 そのあらゆる選択肢の一つが、資産運用とついでです。

竹井 数多ある選択肢の一つに過ぎないかもしれませんが、末寺を支えていくための一つの方法だと考えています。それが困っている信者さんを救うことにつながるはず。否定することは簡単ですが、国民の年金も財源確保のために運用されている中で、安易に選択肢を潰すことが正しいとは思えません。

松岡 近年は運用に前向きな若い住職も増えてきていると感じます。ただ、先代住職とお金に対する考え方が異なるなど、まだ課題

は多く見られます。

竹井 特にこれからの若い住職にとって、寺院財政は大きな課題です。おそろくプロパーだけでは限界があると思います。当山でも、職員だけでは業務過多で難しくなってきました。在家の方も視野に入れていきます。

高野山のランドデザインやリアフリー化なども進めています。業者さんには失礼なことでも本音で話してほしいとお願ひしています。奇想天外に聞こえる提案の中にも、参考になる部分があるかもしれません。何とか末寺が喜ぶことをしていくために、これかも策を講じていきたいと思ひます。

■松岡氏の感想

竹井財務部長へのインタビューを終え、最後に宗教法人の資産運用の現状と、宗教法人がとるべき対策を松岡氏に聞いた。

松岡 これまで多くの寺院から資産運用の相談を受けてきました。お金についての情報共有が避けられがちな業界柄、運用の必要性を感じながらも周囲の理解を得られない寺院や、金融機関からの商品提案に依存している寺院がと

ても多いと実感しています。今回の対談で竹井財務部長にお話しいただいたことは、仏教界にとって大変貴重な知識になるはずです。惜しむもなく情報公開いただき、心より感謝申し上げます。特に、寺院を取り巻く様々な環

少なくありません。例えば、御堂の前にQRコードを設置してスマートフォンで説明を受けられるようにし、寄付サイトにもアクセスできたりすれば、寄付文化が根付いている外国人観光客や一般の参拝者も歴史的価値を理解しやすく、気軽に寄付していただけるか

とにかくお寺は建物の維持管理にお金がかかります。過疎地の兼務寺院など、現実的に全てを維持していくことは困難だと思ひます。建物がなくとも、信者さんとの繋がりを維持していきけるような方法なども含め、考えていかなければいけない局面に入ってきていると思ひます。

対談した高野山真言宗の竹井財務部長(左)とIFAの松岡弘頼氏



企画協力

I F A 法人 M K 3 株式会社

境変化に対し、あらゆる選択肢を排除せずに策を講じていく。その中の一つに資産運用があり、運用は中庸の精神で考え理解の得られやすい方法で取り組む。その点、GPIFの長期分散投資は意義や実績から説得力があると考えられる。短期間の成績は重要でないため、単年度で運用成績を評価してはいけない。運用管理においては、金融機関とは異なる第三者の専門家に入ってもらいたい。

以上のごことは多くの現場で参考にしていただけるのではないかと

仏教界でも一部の宗派が有価証券を購入するための費用を予算計上したことが話題になりました。が、資産運用に対する考え方は加速度的に変化していると感じます。業界内でもっと情報共有が進み、金融機関に依存することなく正しい知識の下で、資産運用が寺院護持に向けた選択肢の一つとして受け入れられていくことを願ひ

(おわり)